



MASDAGOLF JOURNAL

STUDIO パター シリーズ

マスダゴルフを象徴する
3機種の削り出しパター



STUDIO-1 PUTTER

マスダゴルフがスタートする以前に誕生し、ブランドの顔としてロングセラーを続けるモデル。振りやすさと扱いやすさ、分厚く心地よい打感を持つ「STUDIO」パターの原点です。



STUDIO-2 PUTTER

オーソドックスなピン型の形状にマスタゴルフのノウハウが詰まったモデル。太い線で構成された安心感とヘッド挙動の安定感が、自然と良いストロークをもたらします。



STUDIO-3 PUTTER

10年ぶりに誕生した『STUDIO』パターは、増田雄二の出世作となった『WOSS』を思わせるマレット型。抜群の安定感を持ちながら、L字型のように操作性出来る高機能モデルです。

MASDA PUTTER TYPE-L

クラシックなL字型でありながら、扱いやすく挙動が安定する「TYPE-L」を再設計。
より安心感のあるパターになりました。
「STUDIO」シリーズとはまた違った、風格と氣品を持ち合わせたモデルです。



伝統と革新が交差する 10年後まで続くデザイン

増田雄二是いつも前向きだ。
会うたびに、新しいクラブのアイデアや次のサービスの構想を楽し
そうに話す。常に前を向いているか
らだろう、昔の話はあまりしたがら
ない。話したくないわけではなさそ
うだが、終わったことよりも、これ
からの未来を語るほうが好きなの
だ。

とはいえ、我々ゴルフ記者は昔の
話、特に尾崎将司とのエピソードを
聞きたがる。気の進まない増田にな
にか語つてもらおうと、しつこく食
い下がることもあるのだが、その
時、いつも増田が口にするのは、
「恩返ししたい」という言葉だ。
「こうしてクラブが作れているのも、
全部ジャンボさんのおかげで
す。だから、今を頑張ることが恩返
しになるんです」。

増田のデビュー作とも言える
『WOSS WO-01』が登場した96
年、尾崎将司は17戦で8勝。勝率

47%という驚異的な成績をあげた。
尾崎が長年愛用したL字型パター、
『トミーアーマー -IMG5-』の操作
性を踏襲しながら、安心感のあるマ
レット型。当時のゴルファーは、こ
れまでにないその独創的な形状に、
度肝を抜かれたものだ。

今こそ、マスダゴルフはクラ
シックなデザインを踏襲したメー
カーという印象があるが、主宰する
増田雄二自身は、革新的なアイディ
アを引っさげて、ゴルフ界に登場し
た。そして今も、伝統的なクラブの
フォルムをとり入れつつ、その独創
性はしさかも変わっていない。

『STUDIO』パターとして
は、約10年ぶりの新作となつた
『STUDIO-3』は、これまで
マスダゴルフが取り組んできた伝統
と革新が、交差した地点で生まれた
パターだ。

「売れるとかというよりも、自分
が作りたくて作ったパターです」と

増田は言う。どうしても作りたかつ
たそのデザインは、格別の重厚感を
持つ、安心感のあるマレット型。L
字型のような操作性を持ちながら、
難しさを微塵も感じさせない機能。
それは、かつてゴルファーが驚嘆し
た『WOSS WO-01』を彷彿させ
るものだ。あれから四半世紀が経
ち、マスダゴルフとしての進化の答
えがそこにある。

美しく、調和の取れたライン、軟
らかさの中にぐつと厚い手応えのあ
る打感。『STUDIO』パターの
特徴である機械加工によって、イン
ゴットから成型され、職人の手作業
によって、人間が構えてみて扱いや
すい道具として仕上げていく。

「10年ぶりの新作だから、これか
ら10年先まで売らないとね」と増田
は笑うが、それだけ完成度に自信が
あるということだろう。現在、10年
先を見て、ものづくりを行っている
メーカーが、果たしてどれだけあ
るだろうか。その言葉が、些かも大き
さではない、その濃密な存在感をぜ
ひ、手にとつて感じてもらいたい。

ゴルフライター コヤマカズヒロ



ゴルファーの潜在能力を引き出す
マスダゴルフの思想

マスダゴルフでは百貨店を中心に、全国でフィッティング会を開催しています。増田雄二も多くの会場に足を運び、お客様と直にお話することで、より良いクラブの提案を行っています。おかげさまでフィッティング会は、いつも盛況。直ぐに予約が埋まってしまうことも多く、どうしたら、より大勢のお客様に来ていただけるか検討しているところです。

多くのクラブフィッティングは、その人の今のスイングに合うものを選びます。最近では弾道計測器が主流となり、打ち比べることで飛距離を出せるクラブを探せるようになりました。

しかし、マスダゴルフのフィッティングは、少し発想が異なり

ます。お客様のカラダの動きを見て、心の動きにも気を配りながら、どうしたら、その人のポテンシャルを引き出せるかを考えるので。「どんなゴルファーにも必ず良いところがある。それをいかに引き出すか」と増田雄二は言います。その時のスイングに合わせるのではなく、その人が本来持っている潜在能力をクラブによって引き出す、それが理想なのです。

そして、フィッティングだけではなく、マスダゴルフのクラブ全てが、そうした考え方に基づいて作られています。使えば使うほど心地よく、自然と上手くなっていくけるクラブ。それがマスダゴルフの設計思想です。

Manufacture ~マスダゴルフのものづくり~



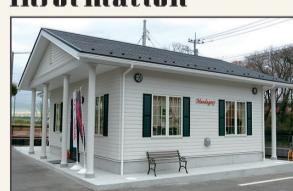
職人による手作業の技がマスダゴルフの強み。例えば、「STUDIO」バターの場合、精密に機械加工で形作られたヘッドを最後に職人の目で見て、形を微細に整えます。ゴルフクラブはあくまでも人間が使う道具。人間の目で見て、道具として“良い顔”になるように仕上げるのです。

ロフト・ライ角や長さはもちろん、いくつもの仕上げ加工やレーザー彫刻、そしてネーム刻印や色入れに至るまで、ひとつひとつオーダーを受けてから制作していきます。プロパーでもあって、実際にはカスタムメイドのクラブと変わらない手間と技術を費やしています。

手にとっていただければ、一味違うマスダのものづくりを感じていただけるでしょう。



Information



有限会社 マスダゴルフ
マスダゴルフ ショールーム

〒276-0040
千葉県八千代市緑が丘西1-5-1 ユニオンゴルフ緑が丘内
TEL:047-750-7220、FAX:047-406-5141
info@masdagolf.com
※ショールームの平日のご利用は《完全予約制》となりますので
事前にお問い合わせください



公式サイト



オンラインショップ



Facebook



Instagram

<http://masdagolf.com>

Interview

増田雄二（マスダゴルフ代表）
ショートインタビュー



—早いもので、『M425』ウェッジが生まれてから、7年が経ちました

ありがとうございましたことに、今でもたくさん注文をいただいているんですよ。ジャンボさんのおかげです。

—もともとは尾崎将司プロのために作ったプロタイプなんですね

その年にクラブ契約が変わって、とにかく開幕に間に合わせよう開発したウェッジです。その時は販売しようなんて考える間もありませんでした。

—そのクラブでエージュートを達成し、一躍話題になりました

あれだけの偉業ですから。欲しいという要望也非常に多く、急遽、発売することになりました。でも、当時は市場にグースネックのウェッジがほとんどないような状況でしたから、本当にニーズがあるかは少し不安でした。

—それが今でもヒット商品になっているんですね
ジャンボさんはアプローチの名手でもありますから。
『M425』にはそのノウハウが詰まっています。そんなウェッジが悪いわけがないよね（笑）。最近は、グースの良さも見直されてきたんじゃないかな。

—一時は生産が追いつかないほど、注文が来ていたらしいですね

長期間お待たせしてしまったお客様には、本当に申し訳なく思っています。今は生産体制も強化でき、これまで以上のご注文に対応出来ていますよ。

—ストレートネックの『M425/S』も人気です

あれだけテクニックが使えて、しかもやさしいというプロモデルは他にないでしょう。我々は頑張って生産するので、どちらのモデルもぜひ皆さんに使っていただきたいですね。



自動車関係のエンジニア出身、金型の設計、製作など金属加工のスペシャリスト。全盛期の尾崎将司プロのために開発され、空前の大ヒットとなった『WOSS』は、その知識を生かして開発・考案したバターに改良を加えて生まれた。以降、尾崎プロのチーフデザイナーとしてドライバーからバターまですべてのクラブの開発・製作を担当した。

その後、クラブデザイナーとして独立し、2004年に「マスダゴルフ」を設立。トッププロとのやり取りの中で生まれた、常識にとらわれない独自の発想で、高機能・高品質のクラブを発表し続けている。

ゴルフ全般に造詣深く、本人も300ヤードを超える飛ばし屋。
1962年熊本県生まれ。

MASDA GOLF